

# 心豊かな人を育み、 生涯にわたって 学習できるまち

豊かな自然と調和した住環境の中で、人々が心豊かにいきいきと暮らし、誰もが「住んでみたい、住んでよかった」と実感できる教育・文化のあるまちを目指します。

## 政策目標

③

### 〈施策分野〉

- 3-1 教育環境の整備
- 3-2 教育の充実（幼稚園）
- 3-3 教育の充実（小・中学校）
- 3-4 生涯学習活動の推進
- 3-5 市民スポーツ活動の支援
- 3-6 歴史・芸術文化の振興
- 3-7 国際交流の推進
- 3-8 青少年の健全な育成

# 3-1

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

## 教育環境の整備

### 現況と課題

出生率の低下により、小学校児童数は、昭和54年度の7,422人をピークに減少が続き、平成22年度はピーク時の47.7%の3,540人、中学校生徒数は、昭和57年度3,696人をピークに減少が進み、平成22年度はピーク時の48.2%の1,781人にまで減少していることから、学区の再編や学校の統廃合、学校施設の計画的な改修などにより、学校施設の規模・配置を適正化する必要が生じています。

小中学校の校舎や体育館は、児童生徒が学習する施設としてだけでなく、広域避難場所ともなっています。大地震の発生が予想される中、耐震性に劣る小学校の体育館3棟、中学校校舎4棟及び耐震診断の必要な中学校校舎1棟の耐震化対策が必要となっています。

小学校では全校で学校給食を実施していますが、中学校では1校のみでの実施となっており、小中学校全体としての学校給食のあり方についての検討が必要となっています。

学習指導要領ではパソコンを活用した情報教育の充実を求めており、パソコン教室、特別教室等への教育用パソコンの配置とともに、\*1校内LANの整備が必要となっています。

### 目 標

児童・生徒が学習しやすいまちを目指します。

### 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
学校施設の耐震化率	小中学校校舎及び体育館の耐震化されている施設の率(耐震診断対象棟数に対し「健全」であった棟数と耐震補強済の棟数の合計)	平成22年度末	100%	100%
		77.80%		
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数	教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数(毎年5月1日に実施する学校基本調査)	平成22年	3.6人	2.0人
		12.0人		

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 総合的教育行政の推進	教育効果を維持・改善するため、学区の再編や学校の統廃合及び学校施設の計画的改修などにより、良好な教育環境を確保する。
2 学校施設の耐震化	耐震性に劣る学校・施設等は、耐震補強工事又は建替工事を実施するなど、早期に耐震化対策を完了する。
3 学校給食のあり方の検討	学校給食のあり方について、施設の有効利用、効率的な運営方法など、伊東市の現況に合ったあり方についての調査研究を行った上で、今後の対応方針を策定する。
4 情報教育環境整備の充実	校内LANなどの情報環境整備を進め、特別教室、各教室においてもパソコンやインターネットを使用して学習できるような環境を整え、学校全体の情報環境整備を推進する。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
保護者と地域の方たちとの協働による教育環境の整備	保護者と学校が共に行う奉仕作業による施設整備を進めるとともに、地区懇談会、 <sup>※2</sup> 学校評議員等からの意見・提案を教育環境整備にかかしていく。

※1 LAN:Local Area Networkの略で「構内通信網」と訳される。ケーブルや無線などを使って、同じ建物の中にあるコンピュータや通信機器、プリンタなどを接続しデータをやり取りするネットワークのこと。

※2 学校評議員:校長の求めに応じ、学校運営に関して意見を述べることができる人員のこと。学校教育法施行規則に基づく制度

## 3-2

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

# 教育の充実（幼稚園）

## 現況と課題

伊東市は、市内各地域に公立幼稚園が14園あり、海や山、川などの恵まれた自然環境や、その地域の人や文化、行事などを活用して、地域に根ざした特色ある園経営がされています。小学校の学区に幼稚園があることで、園生活を送ってきた友達と卒園後も一緒に不安なく就学することができます。また、私立幼稚園2園では、それぞれ特徴ある幼児教育を行っています。

核家族化に伴い、地域内で子育ての相談相手がない母親が増えてきており、幼稚園が、子育てに対する援助や保護者同士の交流の場として期待されています。また、入園時に基本的な生活習慣が身に付いていない子どもが多く、子どもの成長状況や発達度合いなどについて、保護者への精神的なフォローをする取組が求められています。

近年の少子化の影響により、入園児が減少しており、集団の中での協調性や、規律が伴った社会性を養うための集団的活動を必要としている園があります。

保育園ニーズと幼稚園ニーズを取り入れた効率的な幼児教育を目指し、幼保の連携が必要とされています。

## 目 標

どの子どもも夢を持ち、のびのびと活動する園のあるまちを目指します。

## 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
幼稚園が楽しいと思う子どもの割合	幼稚園評価 実施:各年度2学期末 対象:保護者 項目:「おさんは幼稚園に行くのを楽しみにしていますか」 指標基準:上記質問に対して、「Aはい」、「Bどちらかといえばはい」と答えた人の割合	平成21年度	99%	100%
		97.9%		

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 幼稚園教育の充実	地域の特色を取り入れた保育計画に基づき、小・中学校との交流活動を進める。また、教諭の幼児への教育力向上のため、各種研修会の参加や、幼稚園の相互訪問の実施などを更に充実する。
2 保護者と共に子どもの育ちを支える	保護者同士の交流の機会を提供するとともに、子育て相談機能の充実を図る。また、家庭と連携しながら基本的な生活習慣が獲得できるよう支援する。
3 集団保育を実施するための環境整備	同園内での異年齢児の交流や、他園との交流により、集団保育を実施する。また、入園児減少への対応のため、本園と分園、小規模園のあり方については、市立幼稚園全体の状況を見ながら、統廃合を含め検討する。
4 子育てニーズに応じた幼保連携の推進	保育園と幼稚園、それぞれの子育てニーズに対応できる施設の整備の検討や、保育所との交流も含め、就学に向け一貫した幼児教育を推進する。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
地域行事、園行事を通しての地域住民との相互交流	生まれ育った地域の一員として、地域行事と幼稚園行事との相互交流を図ることにより、地域で子どもを育てていく。

# 3-3

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

# 教育の充実（小・中学校）

## 現況と課題

学力2極化や学習意欲の欠如等が課題となっている状況を踏まえ、子どもの学ぶ楽しさを実感できるような授業の充実、意欲的に学び合う子どもの育成が必要です。

急激な社会状況の変化に伴い、規範意識や道徳性が揺らいでいる状況を踏まえ、夢や志を持ち、よりよく生きるための心の教育の充実が必要です。

日常生活環境の変化に伴い、子どもの体力や忍耐力の低下が課題となっている状況を踏まえ、基本的な生活習慣を整え、心身ともに健康な子どもの育成が必要です。

伊東の将来を担う子どもにとって、学校での教育だけでなく地域の教育力が求められる状況に踏まえ、更なる地域との連携・交流が必要です。

価値観が多様化し、求められることが多い社会状況の中、日々の生活や学習に「\*困り感」のある子どもや家庭への支援が必要です。

## 目 標

将来に夢を持ち、どの子ども生き生きと活動する学校のあるまちを目指します。

## 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
学校が楽しいと思う子どもの割合	・小中学校における学校評価 ・実施 各年度1学期末 ・対象 児童、生徒 「学校が楽しいですか」「学校生活を楽しく過ごしていますか」という質問に対し学校が楽しいと感じている児童、生徒の割合	平成22年度	〈小学校〉 93%	〈小学校〉 98%
		〈小学校〉 88.8%		
		平成22年度	〈中学校〉 81%	〈中学校〉 86%
		〈中学校〉 76%		

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 基礎学力の向上	子どもたちの実態にあった1年間の学習や行事の計画を作り、幼保・小・中の連携を進める。また、子どもたち一人一人の個性や特性に応じた指導に努め、子どもの「分からないこと」を大切にするとともに、自ら学び考える基本的な力を育成し、できることの喜びを味わえる授業の実現に努める。
2 豊かな人間性・社会性の育成	道徳教育を進め、思いやりの心を育成するとともに、社会の構成員としての必要なルールを身に付けることに努める。
3 健康な身体と基本的生活習慣づくりの推進	日々の遊びや運動、学級活動、保健指導等を通して健康管理意識を高めるとともに、保護者と連携しながら「早寝・早起き・朝ご飯」を始めとする安定した生活習慣づくりを推進する。
4 地域連携・地域交流の推進	地域の身近な方々の講話や職業体験、近隣施設の積極的な利用などの地域連携を通じ、地域を学び、地域に対する愛着心をはぐくむことに努める。また、PTAや地域の各種団体と連携・協力し、交通指導・安全パトロール等を行うことで子どもたちの安全・安心を確保する。
5 教育的支援体制の充実	教育相談室や適応指導教室、通級指導教室の運営の充実を図るとともに、教育指導員や関係機関とが連携・協力し、個に応じた教育的支援体制の充実に努める。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
学校行事への積極的な参加	地域の学校行事に積極的に参加するとともに、日ごろから子どもたちへの声かけやあいさつに心掛ける。

※ 困り感: 児童生徒が、学校生活を営む上で発達の違いなどによって学習面、生活面、対人関係面などに困難な様子が見られること。教育現場での相談・指導で主に使用する言葉

# 3-4 心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち 生涯学習活動の推進

## 現況と課題

生涯学習の理念である自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所で学習することができ、その成果を適切にいかすことができる社会を実現するため、市民一人一人が生涯を通じて学習することが求められています。

市民の生涯学習活動の機会を充実するため、市では、毎年度市民大学を開講し、市民のニーズに対応した様々な講座を開設しています。その中でもパソコン講座は定員を超え市民の関心の高い講座となっています。今後も、受講者の満足度の向上を目指し既設講座のレベルアップを図るとともに、より市民ニーズに対応した講座を開設し、生涯学習機会を増やしていく必要があります。

生涯学習の場として、伊東市には中央会館、ひぐらし会館のほかにも市内各地に3つの生涯学習センターと4つのコミュニティセンターを有し、身近な地域でいつでもどこでも活動できる環境が整備されており、現在、これらの施設を中心に市民自ら活発な活動が行われています。

市民への生涯学習の情報提供の拠点である図書館では、市民のニーズに応じた特集コーナーを設置するなど、情報発信に努めているほか、郊外の市民向けに移動図書館を運営するなど、機能の充実を図っています。図書館スペースが十分でなく、多くの本が閉架書庫に収蔵（約60%）されているのが現状ですが、今後も図書の実数を増やすとともに、市民に対して更なる情報提供に努め、より市民が利用しやすい図書館の運営を図ることが重要です。

## 目 標

市民が生涯を通じていつでもどこでも  
快適に学習できるまちを目指します。

## 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	生涯学習センター及びコミュニティセンターで実施した生涯学習活動の年間参加者延べ人数/伊東市人口(住民登録人口)	平成21年度	2.59回	3.09回
		2.09回		
市民1人当たり図書貸出し冊数	移動図書館を含む市立図書館での年間の図書貸出し冊数/伊東市人口(住民登録人口)	平成21年度	4.50冊	6.23冊
		2.86冊		

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 生涯学習機会の提供	市民の要望に応じた学習の機会を提供するため、生涯学習センター等を活用した学習講座や教室などを開設するとともに、学習成果の発表の場を設けるなど、市民の学習意欲の啓発を図る。また、市内の活動サークルや指導者リストを紹介する情報誌を配布し、市民がいつでも、どこでも、誰でも生涯にわたって学習できる機会を提供する。また、地域住民の生涯学習活動を積極的に推進する拠点施設である生涯学習センター3施設やコミュニティセンター4施設と連携を図り、地域の実情に合わせた各種事業の拡充や誰もが参加できるサークル等の活動支援に努め、生涯学習機会の充実を図る。
2 市民の自主的生涯学習活動の推進	市民が「いつでも、どこでも、いつまでも」生涯にわたって学べるよう生涯学習に係る情報の収集・提供や指導者リストの整備拡充に努めるとともに、生涯学習センター等の学習拠点施設の整備充実を図る。
3 図書館機能の充実	情報提供拠点施設として、図書資料の充実や利用環境の整備を行うとともに、インターネット蔵書公開システムの活用・普及を図ることにより、市民の利便性を図る。また、郊外に住む市民のために移動図書館の内容を充実させ、図書館サービスの拡充に努める。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
自主的な生涯学習活動の広がり	講座参加者による自主的な新たなサークル活動の開始や既存サークルへの参加により、市民による生涯学習活動の広がりを進める。



# 3-5

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

## 市民スポーツ活動の支援

### 現況と課題

スポーツは、市民が生涯にわたり健康な生活を送る上で様々な効果があることから、市民の誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じていつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことが重要です。

「市民一人一スポーツ」を目指し、体育協会との共催によるオレンジビーチマラソン、伊東駅伝等のスポーツ大会等の開催や、各地域の体育振興会と連携を図り、区民体育祭などの地域スポーツの振興に努めています。今後も、市民が気軽に参加できるスポーツによる健康づくりの方策を検討するとともに、ニュースポーツ等の実技指導を行う中で、生涯スポーツを更に充実していく必要があります。

市民体育センターや市民運動場、大原武道場等の社会体育施設の整備、充実に努めるとともに、市内の小・中学校の体育施設を市民に開放して、スポーツの振興を図っています。また、豊富な温泉と美しい自然の中でのんびりスポーツを楽しむ観光客が増えており、市民だけでなく観光客も含め、たくさんの方が施設を利用しています。

社会体育施設の整備充実が必要ですが、新規建設は困難な状況にあることから、既存施設を保守しバリアフリー化を進め、誰でも気軽にスポーツができる環境を整える必要があります。

### 目 標

市民が気軽に快適にスポーツができるまちを目指します。

### 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
スポーツ施設の年間利用者数	市民体育センター、市民運動場、かどの球場、大原武道場、学校開放屋内運動場・屋外運動場・夜間照明施設の年間利用者数	平成21年度 312,528人	330,000人	350,000人

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 スポーツ指導者の養成	市民誰もが健康的にスポーツを楽しむことができるよう、年齢やレベルに応じた指導ができる指導者を養成するため、県やスポーツ団体等が行う技術指導、安全管理等に係る指導者研修会への参加を図る。また、体育に関する専門的技術的指導のできる体育指導委員の養成、充実に努める。
2 スポーツ大会の実施	スポーツ活動の促進と市民のスポーツの実践の場として、按針祭協賛市民スポーツ祭、伊東市スポーツ祭、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝等、各種スポーツ大会を実施するとともに、しずおか型地域スポーツクラブの設立に努めるなど、地域スポーツの振興と市外スポーツ団体との交流の拡大を図る。
3 体育施設の整備	既存施設の整備計画を立てる中で、老朽施設の改修やバリアフリー化を順次進め、誰もが利用しやすい環境の整備に努める。また、総合体育館の建設に向けて調査・研究を進めていく。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
スポーツ活動への参加	各地区の体育振興会と連携を密にし、地域住民の体力増進とコミュニティ意識の向上のために、区民体育祭を奨励、支援する。市民団体や企業等と連携を図る中で、体育指導委員による健康づくりを取り入れた生涯スポーツの普及に努める。



# 3-6

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

## 歴史・芸術文化の振興

### 現況と課題

伊東市には、恵まれた自然環境がもたらす天然記念物が多くあり、古くから人が暮らしてきた歴史があります。また、各地域には特色ある伝統芸能が多くの市民によって伝承されています。

文化財は私たちに残された貴重な歴史遺産であり、保護・保存し、後世に伝えていくことで、多くの市民が郷土に対する愛着を忘れないものとなります。このため、これらの歴史遺産の保護・保存のために、文化財講座などを通じ、文化財に親しむ機会を拡充し、文化財愛護の精神を育てる必要があります。

文化財管理センターでの歴史遺産の公開や木下杢太郎記念館における郷土の偉人木下杢太郎の業績の紹介、また、市史講座や講演会の開催により、市民の学習機会を提供しており、今後も市民に対し、郷土の歴史や文化の情報を発信していく必要があります。

市民による観光ガイド・伊東自然歴史案内会は、伊東市の豊かな自然、歴史、文化等の案内を行い、市民と観光客の交流を進めています。また、地域の文化財を守るNPO等の市民団体も精力的に活動しています。今後も、歴史や文化の振興には市民団体等との連携を更に強化していく必要があります。

伊東市文化協会におよそ120の団体が加盟しており、さらに協会に参加していない個人・グループも合わせ、多くの市民が日ごろから芸術文化活動を実践しています。活動の発表の場として、市は芸術祭を開催し文化意識の向上に努めておりますが、市民ニーズへの対応を図る中で、芸術活動団体同士の連携も見据え、今後も一層の芸術文化活動の支援が必要とされています。

### 目 標

市民が気軽に歴史、芸術文化に触れることができるまちを目指します。

### 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
歴史文化に触れた人数	杢太郎記念館入館者数、文化財管理センター入館者数、体験講座、市史講座、講演会の参加者数	平成21年度	15,850人	21,130人
		10,567人		
芸術文化に触れた人数	芸術祭への出演・出品人数	平成21年度	1,850人	2,460人
		1,238人		
	芸術祭の観客人数	平成21年度	9,000人	10,000人
		8,633人		

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 歴史、芸術文化に触れる 機会の創出	「市民一人一文化」を目標に、市芸術祭や文化講演会などを開催するほか、演奏会や演劇、展示会などの開催誘致を図り、市民が優れた芸術、文化に触れる機会の創出に努める。また、市民が文化財に愛着を持ち、身近に接することができるよう、文化財講座や古代体験学習などを通じ、文化財に親しむ機会の拡充を図る。
2 歴史文化情報の発信	伊東市史関連書籍の刊行や、インターネットによる歴史情報発信を充実し、市民の郷土に対する理解を深めるとともに、先人の遺産を市民共有の財産として後世に伝える。
3 芸術文化活動の支援	市民の自主文化活動を支援するため、各種文化団体を包括する文化協会の活動を援助し、その育成に努めるとともに、姉妹都市を始め、芸術文化の先進地と民間レベルの人的交流を推進する。また、市民団体等が行う芸術文化活動に対し、市民の文化の向上に寄与すると考えられる事業に対して積極的に支援する。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
文化や文化財を愛護する 市民や市民団体との連携	市民は、伊東市に所在する文化財等の適正な保存活動に対し、積極的に参加する。市は、自然歴史案内人会や市民団体等と連携を図り、市民が活動に参加しやすい環境づくりを推進する。



# 3-7

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

## 国際交流の推進

### 現況と課題

市民と外国人が気軽に触れ合うことができる場を提供するなど、外国人と楽しく共生できる地域社会を形成していく上で、地域における国際交流を活発に推進していくことが重要です。

外国人住民が市民と共に安心して快適に暮らすことができる環境を実現するため、様々な情報発信や事業展開を図り、日常生活の利便性を向上させる必要があります。

伊東市では、国際交流推進の観点や国際化の進展に対応するため、イギリスのメドウェイ市及びイタリアのリエティ市と友好都市提携を結ぶなど、教育文化を中心とした交流を進めています。

国際交流事業を推進するため、伊東国際交流協会を中心に活動を展開していますが、大部分がボランティアスタッフによって支えられていることから、会員の増加を図り、伊東国際交流協会の組織運営を充実させる必要があります。

観光立市であり、外国人観光客誘致に力を入れている伊東市では、各地域で日ごろから外国人の交流が見られることから、この地域的な特殊性を踏まえ、外国人にも分け隔てなく、すべての来訪者をおもてなしの心で迎え入れることは重要であり、この点からも市民の国際理解と外国人との国際交流を図っていくことが必要です。

### 目 標

身近な所で異文化交流が楽しめるまちを目指します。

### 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
国際交流に関する体験や行事に参加した市民の割合	市民意向調査の「あなたは国際交流に関する体験や行事に参加したことがありますか。」に対し、「よく参加している」又は「参加したことがある」と回答した人の割合	平成21年度	18.5%	23.5%
		13.5%		

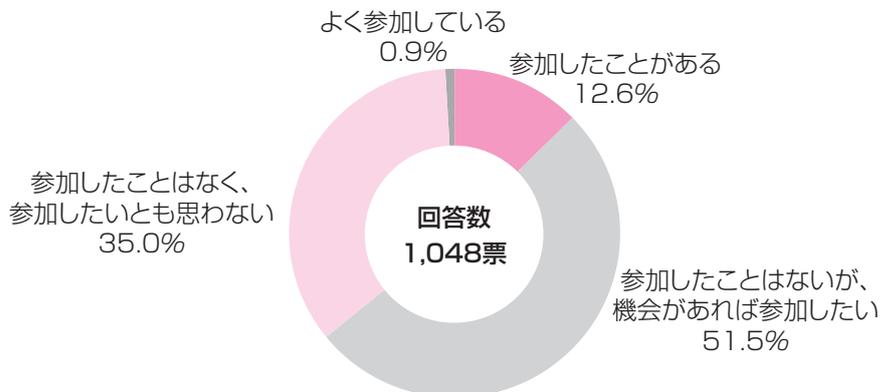
## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 国際交流事業の推進	国際交流フェスタやリエティフェアなどのイベントを伊東国際交流協会と連携して開催することにより、市民と外国人との交流を推進するとともに、国際交流協会の会員の増加に努めることにより、協会の組織運営の充実を図る。また、友好都市との交換留学生事業を通じ、市民レベルの交流を推進する。
2 外国人住民の日常生活環境の支援	外国人住民向けの地元ケーブルテレビ放映や外国人住民相談、日本語教室等を実施することにより、日常生活のサポートを図る。
3 国際理解の啓発	異文化理解講座や外国語講座、外国料理教室を実施することにより、市民の国際理解を深める。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
市民参加による国際交流イベントの実施	市は伊東国際交流協会との共催により、魅力的で多彩な内容の国際交流イベント等を開催し、市民は、イベントの運営にもかかわるなど、積極的にイベントに参加する。

### 国際交流事業への参加状況



(資料:平成21年度市民意向調査)

# 3-8

心豊かな人を育み、生涯にわたって学習できるまち

## 青少年の健全な育成

### 現況と課題

青少年の健全育成において、家庭は基盤であり、地域における生活環境も重要な役割を担っています。しかし、社会環境や価値観の変化により家族間や地域でのコミュニケーションが薄れてきていることから、地域の青少年に対し、周りの大人が積極的にかかわり、コミュニケーションを図るための手段として有効な声かけやあいさつの取組を通じて、「地域の子どもは地域みんなで育てる」意識を育む必要があります。

青少年の補導については、各地域及び関係機関から選任された補導員が、地区ごとに街頭補導や店舗に対し青少年への有害図書類等の販売や貸付けを行わないよう指導することで、非行の早期発見に努めています。しかしながら、深夜営業店の増加や有害図書類を扱う自動販売機の設置などにより、青少年を取り巻く環境は必ずしも良好とはいえない状況にあることから、営業主や所有者等の協力が必要不可欠です。

各地区にある青少年育成会議は、子どもと地域のコミュニケーションを活発化させ、郷土への関心や愛着などを育むことを目的に組織され、活発な活動を行っていますが、今後は、一部の活動できていない地域でも活動を活性化する必要があります。

市内の小学生が郷土の文化や史跡、恵まれた自然に触れる機会や、伝統行事や奉仕活動への積極的な参加を通して、グループ活動の楽しさを効果的に学習し、豊かな心とたくましい身体を作ることが必要です。また、中学生・高校生は今後の伊東市を担う若い力であることから、指導者研修会やボランティア活動等の学習の機会を増やし、リーダーとしての資質の向上を図っていく必要があります。

### 目標

青少年が豊かな人間性、社会性を身につけ、健やかに育つまちを目指します。

### 成果指標

指標	指標の内容・出所等	現状	目標値 (H27)	目標値 (H32)
あいさつ運動賛同者数	あいさつ運動に賛同して「賛同者申込書」を提出して頂いた個人及び団体(団体の場合は、申込書に記載されている人数)の数	平成21年度末	17,100人	21,000人
		13,100人		

## 目標を実現するための具体的な方策

方 策	概 要
1 声かけ・あいさつ運動の推進	あいさつは地域や社会のコミュニケーションの基本であることから、学校や事業所、地域と連携を図り、全市的なあいさつ運動を展開する。また、標語コンクール等を実施し、市民があいさつの良さについて考え、表現することで、あいさつの声が響き合うまちづくりを進める。
2 非行防止体制の強化	青少年を非行から守り、犯罪の被害者や加害者にならないために、補導員を始め、地域住民による補導や見守りの活動を推進するとともに、警察等関係機関と協力・連携し、青少年を非行から守る体制を強化する。
3 地区青少年健全育成活動の活発化	情報交換会など、地区活動の参考となるような意見交換の場を提供し、青少年健全育成活動の活性化を図る。
4 次世代を担うリーダーの育成	夢チャレンジクラブや小学生の船などの体験学習の機会の拡大や受入体制の整備、充実に努め、年少者を指導育成する中高生の能力を育みます。

## 市民の皆さんと一緒に進めていく方策

方 策	概 要
地域の青少年声かけ活動の推進	地域の大人が青少年に関心を持ち、「もっと大人が青少年にかかわろう」を合言葉に、市民総ぐるみの声かけ運動に発展させるための体制をつくる。



## 【一碧湖】



「伊豆の瞳」と呼ばれ、周囲4kmのひょうたん型の景観の美しい湖。湖面に映る天城連山は、春には桜、秋には紅葉と季節ごとに趣きを変える。俳人の与謝野鉄幹・晶子夫妻も愛したと言われるこの湖は、ヘラブナ釣りでも有名なスポットとなっている。